

7月豪雨

## 東・南多久町の一部で避難勧告

7月13日昼過ぎからの豪雨で、牛津川妙見橋（東多久町羽佐間）は、氾濫危険水位を超え5.88メートルに達しました。市では、13日15時に8地区（西ノ谷・庄・羽佐間・石原・古賀一区・古賀二区西・古賀山・古賀平）の494世帯1385人に避難勧告を発令しました。

自主的な避難も含めて130人が避難されました。約3時間で160ミリ〜180ミリの豪雨で市内各所では道路の通行止めや住宅の床上・床下浸水、がけ崩れ等の災害が発生しました。今後もしも災害はいつ発生するかわかりません。日頃から防災の意識を高めましょう。



▲氾濫危険水位を超えた牛津川  
（16時40分頃撮影）



▲避難勧告を受け東多久公民館には  
91人が避難。今後の雨を心配する  
みなさん（18時頃撮影）



▲道路に水が川のように流れ、土の  
うを積む職員  
（北多久町：16時頃撮影）

## 諸田賢順を偲ぶ会



▲専称寺での碁と尺八の合奏

7月13日に筑紫碁の創始者、諸田賢順の遺徳を偲ぶ会が、多久町の専称寺で行われました。

川副春海住職による供養・説法の後、多久市郷土研究会尾形善次郎会長の講話、地元の碁曲グループ「楓の会」と尺八研究会により「六段の調べ」、「春の夜」が合奏されました。詩吟グループ豊明会<sup>ほうめいかい</sup>の献吟では、「諸田賢順を偲ぶ」などの創作曲が吟詠されました。

諸田家の子孫の方も参加され、茶道会による抹茶とお菓子のおもてなしもありました。

## 市長コラム

## 温故創新

Message for citizen

### 「これまで経験のない雨」

市長 横尾俊彦

7月13日、気象庁からの気象予報メールは「これまで経験したことのない雨」だった。通例は概況と予報を詳述し分量も多いが、今回は極めて短く「尋常でない」と知らせるものだった。

13日昼にかけて雨の強さが増し、時間雨量60〜80ミリの雨が続き、3時間程で200ミリに迫った。北部九州の広範囲での豪雨。全世帯に避難指示（命令にあたる）という自治体もあった。多久市では牛津川水位が13時から1時間で2m上昇する勢いで氾濫が危惧されたため15時に8地区に避難勧告を出した。幸いその後には雨は小康状態となり、水位も次第に下って難を逃れた。あと1・2時間雨が続いたら危険な状態だった。

大きな被害はなかったものの、一部では住宅裏山の土砂崩落、林道の損壊や土砂被害、浸水、道路冠水などがあった。それでも、堤防が決壊した福岡県矢部川流域や、犠牲者も出た熊本県阿蘇市などに比べればまだ対処できる状態だ。

最近の雨降りは異常だ。ゲリラ豪雨が急襲する。中国北京では61年ぶりの豪雨で首都冠水。これからは台風シーズンでもある。引き続きの注意と防災の備えをお願いします。

この市報が届く頃、ロンドン五輪も佳境にさしかかる。マラソンの藤原新、やり投げのティン元氣、水泳の北島康介など日本代表選手が世界に挑む。夢をあきらめず、独自の鍛錬も重ねて精進してきた努力により栄光の舞台に立つ。熱い応援をおくりたい。猛暑の熱中症にはご用心を。